

DB2 バックアップ履歴の確認

[DB2][Database]

- ・ http://www.ibm.com/developerworks/jp/data/library/dataserver/j-d_db2maintenance05/index.html?ca=dat-jp-0130

バックアップ履歴の確認

- ・ LIST HISTORY コマンド
- ・ SYSIBMADM.DB_HISTORY 管理ビューを使用して、すべてのデータベース・パーティションからデータを取り出すことができます。

>db2 "list history backup all for { データベース名 }"

結果

```
Op Obj Timestamp+Sequence Type Dev Earliest Log Current Log Backup ID
-----
B D 20130115151445001 F D S0000000.LOG S0000000.LOG
-----
2 個の表スペースを含みます :

00001 SYSCATSPACE
00002 USERSPACE1
-----
Comment: DB2 BACKUP JAW02DB OFFLINE
開始時刻 : 20130115151445
終了時刻 : 20130115151449
状況 : A
```

状況について

リカバリー履歴ファイル項目の状況

- ・ データベース・マネージャーはリカバリー履歴ファイル内にバックアップ操作、リストア操作、表スペース作成、その他のイベントに関する項目を作成します。リカバリー履歴ファイル内の各項目には、アクティブ (Active)、非アクティブ (Inactive)、有効期限切れ (Expired)、pending delete (削除ペンディング)、削除 (Deleted)、または do_not_delete (削除禁止) の状況が関連付けられます。

状況	名称	内容
Active	アクティブ・データベース・ <u>バックアップ</u>	データベースの現行の状態をリカバリーするように現行のログを使用して リストアおよびロールフォワードできるもの
Inactive	非アクティブ・データベース・ <u>バックアップ</u>	リストアの際に、データベースを直前の状態に戻します。
Expired	有効期限が切れたデータベース・ <u>バックアップ</u>	より新しいバックアップ・イメージが使用可能であるために必要ありません。

リカバリー 履歴ファイル

- ・ リカバリー履歴ファイルは、データベースごとに作成され、さまざまな操作の実行時に自

動更新されます。

以下の操作が実行されると、リカバリー履歴ファイルが更新されます。

- ・データベースまたは表スペースのバックアップ
- ・データベースまたは表スペースのリストア
- ・データベースまたは表スペースのロールフォワード
- ・データベースの自動再構築および複数のイメージのリストア
- ・表スペースの作成
- ・表スペースの変更
- ・表スペースの静止
- ・表スペースの名前変更
- ・表スペースのドロップ
- ・表のロード
- ・表のドロップ (ドロップされた表のリカバリーが有効になっていて、リカバリー可能ロギングを使用している場合)
- ・表の再編成
- ・オンデマンド・ログ・アーカイブの呼び出し
- ・新規ログ・ファイルの書き込み (リカバリー可能ログの使用時)
- ・ログ・ファイルのアーカイブ (リカバリー可能ログの使用時)
- ・データベースのリカバリー

ロールフォワード回復に必要なアーカイブログを確認するには

ROLLFORWARD DB データベース別名 [USER ユーザー名 USING パスワード] QUERY STATUS

ロールフォワード回復するには